

# 第3回

# ロシア映画祭 in 東京

Министерство культуры Российской Федерации, и ООО "Год кино" проводит

# ДНИ РОССИЙСКОГО КИНО В ТОКИО

2019.12.12Thr-18Wed 参加費: 無料\*要事前予約(自由席)

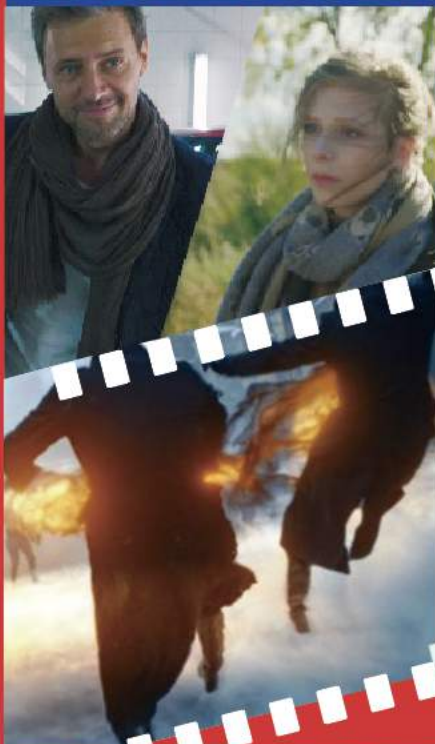


18:00-21:30

## 『黒いガラス』 12

### «Сквозь черное стекло»

Константин Лопушанский監督 133分(18+) 2019年  
 реж. Константин Лопушанский, 133мин., 18+, 2019г., Россия



## 13 『予想外のでき事』

### «Курьезы»

Андрей Мышкин監督 71分(12+) 2019年  
 реж. Андрей Мышкин, 71мин., 12+, 2019г., Россия

18:30-21:00

13:00-15:00

## 『俺たちには死が似合う』 14

### «Смерть нам к лицу»

Борис Гущ監督 77分(16+) 2019年  
 реж. Борис Гущ, 77 мин., 16+, 2019г., Россия



## 14 『エビゲール』

### «Эбигейл»

Александр Богуславский監督 110分(6+) 2019年  
 реж. Александр Богуславский, 110мин., 6+, 2019г., Россия

15:30-18:00

13:00-16:00

## 『目を閉じれば見える』 15

### «Смотрикакя»

Егор Сальников監督 98分(16+) 2019年  
 реж. Егор Сальников, 98мин., 16+, 2019г., Россия



## 16 『選択の権利〜ヴェーラ編』

### «Право выбора. Вера»

Екатерина Устюгова監督 67分(12+) 2019年  
 реж. Екатерина Устюгова, 67мин., 12+, 2019г., Россия

18:30-21:00

18:30-21:00

## 『ハラフ・オディ』 17

### «Харах Оды»

Михаил Мерзликин監督 60分(12+) 2019年  
 реж. Михаил Мерзликин, 60мин., 12+, 2019г., Россия



## 18 『深い河』

### «Глубокие реки»

Владимир Битоков監督 75分(18+) 2018年  
 реж. Владимир Битоков, 75мин., 18+, 2018г., Россия

18:30-21:00

会場: 12月12日(木) 18:00~21:30 / 『シダックスカルチャーホール』(160席) / 渋谷区神南 1-12-10-8F⇒「渋谷」駅ハチ公口(徒歩6分)  
 12月13日(金) 18:30~21:00 / 『在日ロシア大使館付属学校ホール』(240席) / 港区麻布台 2-1-1⇒地下鉄「神谷町」駅(徒歩3分)  
 12月14日(土) 13:00~18:00 / 『専修大学・大学院棟 7号館 731教室』(190席) / 千代田区神田神保町 3-8⇒地下鉄「神保町」駅(徒歩3分)  
 12月15日(日) 13:00~16:00 / 『東京大学・国際学術総合研究棟「文学部3番大教室」』(150席) / 文京区本郷 7-3-1⇒地下鉄「本郷3丁目」駅(徒歩8分)  
 12月16日(月) 18:30~21:00 / 『プラッツ府中・パルトホール』(280席) / 府中市宮町 1-8⇒京王線「府中」駅直結(徒歩1分)  
 12月17日(火) 18:30~21:00 / 『東京都写真美術館ホール』(190席) / 目黒区三田 1-13-3⇒恵比寿ガーデンプレイス内「恵比寿」駅(徒歩10分)  
 12月18日(水) 18:30~21:00 / 『東京都写真美術館ホール』(190席) / 目黒区三田 1-13-3⇒恵比寿ガーデンプレイス内「恵比寿」駅(徒歩10分)

\*席に限りがあります。必ず事前に予約してください。\* ロシア大使館は事前予約なしでは入館できません。  
 主催: ロシア映画祭実行委員会 E-mail: jictokyo@jic-web.co.jp TEL: 03-3355-7294



# ロシア映画祭 in 東京

2017年(10月2日～7日)、2018年(10月19日～25日)に引き続き、第3回目の「ロシア映画祭」が本年は12月12日から18日まで東京で開催されることになりました。本「ロシア映画祭」は、ソビエト時代も含めた旧作や名画の上映が多かった従来の映画祭に対比して、現代ロシアの最新映画を紹介するのが大きな特徴です。同時に来日するロシア映画製作者と観客との対話・交流も大きな魅力となっています。ロシア側主催者は、ロシア連邦文化省とその委託を受けた God Kino 社(代表;セルゲイ・ノヴォジロフ氏)ですが、毎回、日本側で実行委員会を組織して映画祭の準備や運営に協力してきました。今年の第3回ロシア映画祭の概要は以下の通りです。

2019年11月1日 ロシア映画祭実行委員会

- 12 『黒いガラス』**  
 «Сквозь черное стекло»  
 運命が二度とないチャンスを与えてくれた盲目の女性の物語。裕福な男性は盲目のまま妻になることを条件に彼女に視力を約束する。その贈り物によってヒロインは人生の残酷な真実をみることに…。ロシアおよび世界映画の重鎮コンスタンチン・ロブジャンスキー監督による新作。人気俳優マクシム・スハーノフが主役を演じた。コンスタンチン・ロブジャンスキー監督 133分(18+) 2019年
- 13 『予想外のでき事』**  
 «Курьезы»  
 とあるロシアの田舎町で出会った男と女は、さまざまな出来事の連鎖に巻き込まれる。ホテルでの喧嘩、危なっかしい気球飛行、ガソリンスタンドでの裏切り、…。その度に運命は二人を試し、そしてある答えへと導いていく。アンドレイ・ムイシュキン監督 71分(12+) 2019年
- 14 『俺たちには死が似合う』**  
 «Смерть нам к лицу»  
 仕事はクーリエ(配達人)、両親に見捨てられ、バカな親友しかいない。そんな彼が4日間で400万ルーブルを工面できるのか。知り合いから借金する、最後の持ち物を売り払う、AV男優になる、…。さて、愛する女性が死なないように何でもやる男の運命は…。「モバイル・シネマ」運動の発案者であるグッツ監督は自身の映画を複数のiPhoneで撮影している。ボリス・グッツ監督 77分(16+) 2019年
- 15 『目を閉じれば見える』**  
 «Смотри как я»  
 超能力を持つ主人公と魔術師たちのファンタジー映画。ロシアの人気俳優と女優が出演しているが撮影は英語でなされている。若い女性エビゲールは得体が知れない疫病で長年立入禁止区域となっている町で暮らしている。エビゲールの父も病で倒れ、彼女が6歳の時に父はどこかに連れていかれた。父を見つけるために権力に挑んだエビゲールはこの町が魔術に満ち溢れていることに気づく。そして彼女自身にも不思議な能力が目覚めてくる。アレクサンドル・ボグスラフスキー監督 110分(6+) 2019年
- 16 『選択の権利～ヴェーラ編』**  
 «Право выбора. Вера»  
 人気俳優エゴール・サリニコフが監督した長編デビュー作。少年院から逃げてきた無鉄砲で男勝りのオーリヤは、大金持ちの父の奇怪な言動に疲れた盲目の少年マクシムと知り合う。互いに取引をした彼らは旅に出る。不自由な身にもかかわらずマクシムは絶望的で狂わしい状況から抜け出す方法を見つけ出し、オーリヤの世界への見方を変えていく。エゴール・サリニコフ監督 98分(16+) 2019年
- 17 『選択の権利～ヴェーラ編』**  
 «Право выбора. Вера»  
 1978-80年のソ連。ブレジネフ時代末期の『停滞の時代』、経済不況の中で父親と娘はつらい選択が迫られる。自己中心的に生きるか、出世を選ぶか、それとも家族との愛を優先するか。初恋、親孝行、そしてキリスト教の教えとの出会い、…。人間の心のありようが深く描かれた作品。エカテリーナ・ウスチュゴワ監督 67分(12+) 2019年
- 18 『深い河』**  
 «Глубокие реки»  
 主人公・アイアンは貧しくとも幸せな生活が終わりの危機に瀕している。愛する妻アニスが納めようのない年貢のカタに取られてしまう。彼は復讐の道に進む。復讐の相手は世の不公平を許した神そのもの。最高の存在を探すアイアンは魔法や神話に満ちた新しい世界に出会い、おとぎ話や作り話が空想ではないことに気づいていく。ミハイル・メルズリキン監督 60分(12+) 2019年
- 19 『深い河』**  
 «Глубокие реки»  
 2018年末の息子が家業の木材業を行う父や兄弟を手伝うために実家に帰ってくる。少ない食料を得るための過酷な労働、隣の集落の住民との対立、最も近い親戚への愛情と互いに理解し合えない家族たち、…。彼が家を出る前と帰ってきた間に何の変化もなかった。そして、いつ氾濫してその岸辺に建つ彼らの家を流してしまってもおかしくない河も昔のままだった。ロシアの著名な映画監督アレクサンドル・ソクーロフの教え子による長編デビュー作。本作品はロシア・コーカサス地方のカバルダ語で撮影された世界初の作品である。ヴラジーミル・ビトコフ監督 75分(18+) 2018年

ロシア側来日ゲスト:  
 セルゲイ・ノヴォジロフ  
 マクシム・コロソフ  
 ウラジーミル・ビトコフ  
 エカテリーナ・ウスチュゴワ  
 コンスタンチン・ロブジャンスキー  
 リュドミラ・レオンチェワ  
 ボリス・グッツ  
 イーゴリ・ミーシン  
 アナスタシア・ガセンツォワ  
 エゴール・サリニコフ  
 アレクサンドラ・ジュコワ  
 アンドレイ・ムイシュキン  
 ドミトリー・トカチエンコ

God Kino社代表/映画「予想外のでき事」プロデューサー  
 「予想外のでき事」主演俳優  
 「深い河」監督  
 「選択の権利～ヴェーラ編」監督  
 「黒いガラス」監督  
 「俺たちには死が似合う」プロデューサー  
 「俺たちには死が似合う」プロデューサー  
 「俺たちには死が似合う」プロデューサー  
 「目を閉じれば見える」監督  
 プログラミング・ディレクター  
 テクニカル・ディレクター  
 コーディネーター/日本語通訳

## ДНИ РОССИЙСКОГО КИНО В ТОКИО

主催; ロシア映画祭実行委員会 E-mail; jictokyo@jic-web.co.jp TEL; 03-3355-7297  
 (構成団体; 日本・ロシア協会、日口交流協会、一般社団法人ユーラシア国際映画祭、国際親善交流センター)  
 後援; 在日ロシア連邦大使館、ロシア連邦文化科学協力庁在日代表部、ロシア文化フェスティバル日本組織委員会、日本ロシア文学会



WEB 予約はこちらから

http://www.jic-web.co.jp